



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/12/04
SDS整理番号 20428350

製品等のコード : 2042-8350、2042-7332、2042-8380

製品等の名称 : トリエチレントラミン

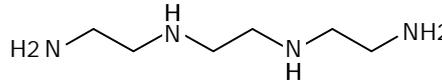
推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
繊維関係(防しわ剤、界面活性剤、染料固着剤)、紙の湿潤強化剤、
農業関係(殺菌剤、殺虫剤、除草剤)、キレート剤、コーティング材、
接着剤(エポキシ樹脂硬化剤)、イオン交換樹脂、ゴム薬品など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体
自然発火性液体
金属腐食性化学品

: 区分に該当しない
: 区分に該当しない
: 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)
急性毒性(経皮)
皮膚腐食性/刺激性
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
皮膚感受性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 区分に該当しない〔区分5(国連GHS分類)〕
: 区分3
: 区分1B
: 区分1
: 区分1
: 区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)

: 区分3
: 区分3

注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ(経口)
皮膚に接触すると有毒(経皮)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

| | | |
|-------------|---|---|
| 化学物質・混合物の区別 | ： | 化学物質（但し、エチレンアミンの混合物*） |
| 化学名 | ： | トリエチレンテトラミン （別名）2,2'-(エチレンビスイミノ)ビス(エタン-1-アミン)、 3,6-ジアザオクタン-1,8-ジアミン、 3,6-ジアザオクタン-1,8-ジイルジアミン、 N,N'-ジ(2-アミノエチル)エチレンジアミン、 1,4,7,10-テトラアザデカン、 N,N'-ビス(2-アミノエチル)エチレンジアミン、 N,N'-ビス(2-アミノエチル)エタン-1,2-ジアミン、 TETA （英名）Triethylenetetramine、 Trientine（EC名称）、 2,2'-[Ethylenebis(imino)]bis(ethaneamine)、 3,6-Diazaoctane-1,8-diamine、 3,6-Diazaoctane-1,8-diylldiamine、 N,N'-Di(2-aminoethyl)ethylenediamine、 1,4,7,10-Tetraazadecane、 N,N'-Bis(2-aminoethyl)ethylenediamine、 1,2-Ethanediamine, N1,N2-bis(2-aminoethyl)- （TSCA名称） |
| 成分及び含有量 | ： | トリエチレンテトラミン、----- (PRTR法含量表示：99%) |
| 化学式及び構造式 | ： | C6H18N4、(-CH2NHCH2CH2NH2)2、構造式は上図参照(1ページ目)。 |
| 分子量 | ： | 146.24 |
| 官報公示整理番号 | ： | (2)-163 |
| 化審法 | ： | 公表化学物質（化審法番号を準用） |
| 安衛法 | ： | |
| CAS No. | ： | 112-24-3 |
| EC No. | ： | 203-950-6 |
| 危険有害成分 | ： | トリエチレンテトラミン |

* 本製品は、トリエチレンテトラミン及びアミノエチルピペラジンなどの高沸点エチレンアミンの混合物である。

4. 応急措置

| | | |
|-----------|---|---|
| 吸入した場合 | ： | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | ： | 直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激または発疹が生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 |

- 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診察を受ける。
- 飲み込んだ場合：直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。意識がない時は、何も与えない。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入：灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛。
症状は遅れて現われることがある。
皮膚：発赤、皮膚熱傷、痛み、水疱
眼：発赤、痛み、視力喪失、重度の熱傷
経口摂取：腹痛、灼熱感、ショックまたは虚脱
- 医師に対する特別注意事項：症状は遅れて発現することがあり、過剰にばく露したときは医学的な経過観察が必要である。
必要に応じて有機溶剤用の防毒マスクを着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本品は可燃性である。
粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
- 特有の危険有害性：燃え易いので、熱、火花、火災で発火する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：
危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

| | |
|---------------------|--|
| 技術的対策 | : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。 引火点(135)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 皮膚、粘膜等に触れると、刺激がある。 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 |
| 接触回避 保管 技術的対策 | : 炎、火花または高温体との接触を避ける。 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の 軽量の不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。 必要に応じて、危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 容器包装材料 : 強酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など)、酸 : ガラスなど |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|----------------------------------|---|
| 管理濃度 | : 設定されていない。 |
| 許容濃度(ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH) | 生物学的ばく露指標): 設定されていない。 設定されていない。 |
| 設備対策 | : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 引火点以上で取扱う場合は防ばくの電気、換気、照明機器を使用する。 |
| 保護具 | 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。 手の保護具 : 不浸透性保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。 |
| 衛生対策 | : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|------|----------------|
| 物理状態 | : 粘濁液体 |
| 性状 | : 無色~わずかにうすい黄色 |
| 色 | : 特異臭 |
| 臭い | : 塩基性 約14(水溶液) |
| pH | : 12 |
| 融点 | : 12 |

| | |
|----------------|--|
| 凝固点 | : データなし |
| 沸点 | : 266 ~ 267 |
| 引火点 | : 135 (密閉式)、129 ~ 143 |
| 可燃性 | : 可燃性 |
| 爆発範囲 | : 下限 1.1vol% 上限 > 6.4vol% |
| 蒸気圧 | : < 1.3 Pa(20) |
| 相対ガス密度(空気 = 1) | : 5.04 |
| 密度又は相対密度 | : データなし |
| 比重 | : 0.979 ~ 0.984(20/20) |
| 溶解度 | : 水に極めて溶けやすい(477g/100mL)。エタノール、ジエチルエーテルに溶ける。 |
| オクタノール/水分配係数 | : log Pow = - 1.4 ~ - 1.66(計算値) |
| 発火点 | : 335 ~ 338 |
| 分解温度 | : データなし |
| 粘度 | : データなし |
| 動粘度 | : データなし |
| 粒子特性 | : データなし |

GHS分類

| | |
|----------|---|
| 引火性液体 | : 引火点143 (Merck, 14th (2006))、135 (Chapman (2008))、129 (ホンメル (1996))であり、引火点が110 以上であるので区分に該当しないとした。 |
| 自然発火性液体 | : 発火点が338 (Sax, 11th (2004))、335 ホンメル((1996))であり、常温の空气中で自然発火しないと考えられるので、区分に該当しないとした。 |
| 金属腐食性化学品 | : 国連危険物輸送勧告で、第8分類 腐食性物質 (Corrosives) に分類されている。しかし、Packing Instruction のコードは IBC02 であり、容器の材質として Steel (鋼鉄)、Aluminium (アルミニウム)、Metal (金属) が定められている。以上のことから、区分に該当しないとした。 |

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

| | |
|------------|---|
| 危険有害反応可能性 | : 通常の取扱条件において安定である。 光のばく露により徐々に着色するので、光を避けて保管する。 酸化剤との混触で激しく反応し、火災や爆発の危険性がある。 強塩基であり、酸と混触すると激しく反応し、腐食性を示す。 ケトン、ハロゲン化炭化水素、シアン化物、ニトリル、エポキシドと反応する。 金属(アルミニウム、亜鉛、銅とその合金など)を侵す。 |
| 避けるべき条件 | : 高温、日光、光、裸火、静電気、スパーク |
| 混触危険物質 | : 酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過氧化物、過塩素酸塩など)、 酸類、ケトン、ハロゲン化炭化水素、シアン化物、ニトリル、 エポキシド、金属(アルミニウム、亜鉛、銅とその合金など) |
| 危険有害な分解生成物 | : 加熱すると分解し、有毒な窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素のガスを発生する。 |

11. 有害性情報

| | |
|----------------|---|
| 急性毒性 | : 経口 ラット LD50 = 4340mg/kg (PATTY, 5th (2001)、SIDS(1998)) 区分5とした(国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5) 経皮 ウサギ LD50 = 550mg/kg(SIDS(1998)) 皮膚に接触すると有毒(経皮)(区分3) 吸入(蒸気) 分類できない。 吸入(ミスト) 分類できない。 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | : ウサギ皮膚に適用した試験で紅斑と浮腫のみならず壊死が複数の試験で観察された(SIDS(1998))ことから、区分1Bとした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1B) |
| 眼に対する重篤な損傷/刺激性 | : ウサギの眼に適用した試験で重度の角膜損傷が報告されている(SIDS(1998))。さらに、皮膚腐食性を示すデータ(SIDS(1998))もあることから区分1とした。 重篤な眼の損傷(区分1) |
| 呼吸器感受性 | : 分類できない。 |
| 皮膚感受性 | : モルモットを用いた皮膚感受性試験(Maximization Test)で陽性率がそれぞれ80%および90%でいずれも「感受性あり(sensitizing)」と評価され(SIDS(1998))、マウスに対する耳介浮腫試験でも陽性結果が得られている(SIDS(1998))。さらにヒトの症例および疫学調査では、本物質が |

| | |
|------------------|--|
| | 皮膚感作性を有することを示す報告が数多く出されている (SIDS(1998))。これらの皮膚感作性が陽性を示す動物およびヒトの情報に基づき、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1) |
| 生殖細胞変異原性 | : 区分に該当しない。 マウスの腹腔内投与による小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) での陰性結果SIDS(1998)であった。 なお、in vitro 変異原性試験では、細菌を用いた復帰突然変異、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験など複数指標で陽性が得られている (SIDS (1998))。 |
| 発がん性 | : 分類できない。 マウスに2年間あるいは生涯にわたり経皮投与の結果、投与に関連する皮膚腫瘍の発生はなく、他の部位においても腫瘍発生頻度の増加は観察されていない (SIDS(1998))、経皮投与であり、かつマウス雄のみのデータであることから、データ不足により分類できない。 |
| 生殖毒性 | : 分類できない。 器官形成期を含む妊娠期間に、ラットの場合は経口、ウサギの場合は経皮投与により、それぞればく露した試験で、胎児および催奇形性を含む仔の発生に有害影響は認められていない (SIDS(1998)) が、親動物の性機能および生殖能への影響に関してデータ不十分のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | : マウス、ラット、ウサギ、モルモットに対して、粘膜に可逆性の軽度炎症と呼吸障害がみられ (SIDS(1998))、さらにエアゾールへのばく露が可逆性の気道刺激をもたらすと記述されていること (SIDS(1998)) から、区分3 (気道刺激性) とした。 呼吸器への刺激のおそれ (区分3) |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | : 分類できない。 ラットの4ヶ月の経口投与試験で215mg/kgの用量で、中枢神経系の興奮、血清中のたんぱく質、ヘモグロビン、場尿酸の減少が認められている (SIDS(1998))。またラットの10ヶ月の経口投与試験で0.8mg/kgの用量で興奮性の増加、感覚反射の促進が認められている (SIDS(1998))。ヒトばく露例でリンパ球や好中球増加、眠気、頭痛、胃の痛み、疲労感、脱力感や食欲減退が報告されている (SIDS(1998))。動物試験およびヒトのばく露において血液、中枢神経系への影響が疑われるが、データ不足により分類できないとした。 |
| 誤えん有害性 | : 分類できない。 |

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類(オオミジンコ) 48時間EC50=31.1mg/L(SIDS,2004)

水生生物に有害(区分3)

水生環境有害性 長期(慢性) : 低濃縮性 (<0.5 (濃度 2ppm) : <5.0 (濃度 0,2ppm)) であるが (経産省既存化学物質安全性点検データ)、急性毒性が区分3であり、急速分解性がない。(OECD302B準拠28日間試験の分解度:0%(SIDS,2004))ことから、区分3とした。
長期的影響により水生生物に有害(区分3)

残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度=0%

生物蓄積性 : 低濃縮性。<0.5 (濃度 2ppm)、 <5.0 (濃度 0,2ppm)

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室

汚染容器及び包装 : 焼却する。
 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 (IMDGコードの規定に従う)

UN No. : 2259
 Proper Shipping Name : TRIETHYLENETETRAMINE
 Class : 8 (腐食性物質)
 Sub risk : -
 Packing Group : II
 Marine Pollutant : No (非該当)
 Limited Quantity : 1L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2259
 Proper Shipping Name : Triethylenetetramine
 Class : 8
 Sub risk : -
 Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2259
 品名 : トリエチレンテトラミン
 クラス : 8
 副次危険 : -
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y [ポリエチレンポリアミン (ペンタエチレンヘキサミンを除く。)]

少量危険物許容量 : 1L

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2259
 品名 : トリエチレンテトラミン
 クラス : 8
 副次危険 : -
 等級 : II

少量輸送許容物件

許容量 : 0.5L

特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒、破損、摩擦又は動揺しないように積載、運搬する。危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。他の危険物のそばに積載しない。車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当 (R7年3月31日まで)。

R7年4月1日以降、次のように該当。
 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 「トリエチレンテトラミン、対象重量%は 1」(法第57条の1)

名称等を通知すべき危険物及び有害物
 「トリエチレンテトラミン、対象重量%は 0.1」(法第57条の2)

化審法 : 旧第2種監視化学物質 No.982 (官報公示日：2010/03/19)
 「トリエチレンテトラミン」

- 化学物質排出管理促進法 (PRTR法)
 : R5年4月1日から
 ・種 別 「第2種指定化学物質」
 ・政令番号 「2-70」
 ・管理番号 「278」
 ・政令名称 「トリエチレンテトラミン」
- R5年3月31日まで
 ・種 別 「第1種指定化学物質」
 ・政令番号 「1-278」
 ・政令名称 「トリエチレンテトラミン」
- 消防法 : 危険物第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体、指定数量4000L、
 (法第2条第7項危険物別表第1) 危険等級
- 毒劇物取締法 : 劇物「N,N - ビス(2 - アミノエチル)エタン - 1, 2 - ジアミン
 及びこれを含有する製剤」、包装等級III
- 船舶安全法 : 腐食性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Y類物質「ポリエチレンポリアミン(ペンタエチレンヘキサミン
 を除く。)」(施行令別表第1)
- 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質 (中環審第9次答申の130)
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
 HSコード : 2921.29
 第29類 有機化学品
 ・輸出統計番号 (2023年4月版) : 2921.29-000
 「アミン官能化合物
 - 非環式ポリアミン及びその誘導体並びにこれらの塩：その他のもの」
 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版) : 2921.29-000
 「アミン官能化合物
 - 非環式ポリアミン及びその誘導体並びにこれらの塩：その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

| | |
|--|-----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH | CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。